

IPU・38



開学10周年記念号



声を弾ませ、祝賀会のスピーチに立つ谷口誠学長



実学・実践の深まりと実績をアピール

6.19 明日への誓い。



西澤潤一・前学長と谷口誠学長 [祝賀会で]

ゲストも多彩に、記念式典

草創からの10年を経て岩手県立大学は、さらなるステージへ踏み出しました。

開学記念日に当たる6月19日。多彩な顔ぶれの来賓を国内外から招いて「開学10周年記念式典」が晴れやかに行われています。

これまでの歩みに感慨と手ごたえを深めるとともに、全学の機運を盛り上げて創り出す歴史へと、思いを馳せた一日。地域に根ざす知の拠点・人材育成の府として多様な貢献を図ってゆく意思が高らかに示されています。



国際交流協定校から祝福のメッセージ



久々の再会を喜び、旧交を温め合う場面も



再会を祝い、笑顔の輪ができました



看護学部関係者が揃って、ニコリ



講堂の入り口での、受け付け風景

開学10周年記念式典・開催レポート

知の創造、 人材づくりを通して あくなき地域貢献を

凛として晴れやかにセレモニー。
なつかしい顔も、続々。

開学から10年という節目を祝おうと、
行政・教育関係ほか、さまざまな方面
から多くの出席者が集いました。

受け付け開始の12時

30分。うやうやしく礼
をしたり、挨拶の言葉
を交わしたりする姿が
見られるようになりま
した。学部長などの要
職を歴任し、教育・研
究の両面で発展の礎を
築いた方々。あるいは
職員として大学運営に
尽力された方々。この
ように、ひとつの時代
を共にして今日への橋渡し役を務めた
顔ぶれが一堂に会する場面が、ひとき
わ印象的でした。

会場となった講堂は、凛として晴れ
やかな雰囲気です。岩手県知事・達増
拓也氏、首都大学東京学長・西澤潤一
氏（初代学長）ら、本学とゆかりの深



国際的な視野に基づく、
地域貢献への決意を表す
谷口 誠学長

い各氏が壇上に上りました。
響き渡る拍手に迎えられ、谷口誠学
長による式辞の始まりです。

「次なる10年、さらな

る飛躍へ向けて本学の
新たな歩みが始まりま
す。少子高齢化やグロー
バル化が進展する今日、
どの分野においても山
積する諸課題を解決す
るために、国際レベル
の専門性が不可欠とさ
れています。本学が強
く指向する地域貢献の
深化を図る際にも、そ

うした知の所産は有効であると確信し
ています。Think Globally, Act Locally。
すなわち地球サイズで思考し、地域に
根ざして実践を図る観点に立ち、全学
を挙げてあらゆる可能性を追求してい
く所存です」

と、国際的な視野に基づく地域貢献



新たな時代を創る人材の輩出へ、
期待を寄せる達増 拓也知事

■本県は、人材育成を政策の柱の一つとする「いわて希望創造
プラン」を策定し、推進しているところです。人間性に優れ、
実社会において有為な人材を数多く輩出してきた岩手県立大学
が建学の理念を踏まえ、本県における「知の拠点」として岩手
のみならず日本、そして国際社会の未来を担う人材づくりの場
として、ますます発展されるよう願っています。



式典がスタート。式辞を述べる谷口学長



一言、一言、感慨深げにメッセージを贈る西澤 潤一・前学長

■心の在り様は、さまざまなきを生かす術へと結びつきます。それぞれの意思で、密度の濃い学びを経た人材が各界へ羽ばたくのは喜ばしい限りです。「すべての人が幸せになるように」と、岩手に在って世界に普遍のメッセージを発した宮沢賢治。その精神に多くを学んで学生諸君が未来へ翔け、ひいては、岩手県立大学が発展を遂げていくよう祈念します。

総務大臣・増田寛也氏のメッセージ [代読・抜粋]

■開学に携わらせていただいた者の一人として、岩手県立大学の10周年に心より、お祝い申し上げます。今後とも貴大学が、岩手県における知の拠点として、有為な人材を輩出し続けていただくことはもちろん、地域との有機的な連携を重ねながら地域経済の振興や生活環境の向上にと、多面的な成果を挙げられることを大いに期待しています。



岩手県知事ほか、来賓の各氏が壇上へ



各界からの招待者が席を埋めました

岩手県立大学 開学10周年記念式典

平成20年6月19日 [木]
開式・午後1時30分
式場・岩手県立大学 講堂

◆次 第

開会宣言 事務局長／古澤 眞作

式 辞 学長／谷口 誠

祝 辞 岩手県知事／達増 拓也氏
岩手県議会議長／渡辺 幸貴氏
総務大臣／増田 寛也氏 (代読)
首都大学東京学長／西澤 潤一氏

来賓紹介

10年の歩み紹介 佐々木 民夫副学長
国際交流協定締結校などからのメッセージ
記念ミニコンサート

あんべ光俊さん・学生・教職員

謝 辞 理事長／相澤 徹

閉会宣言 事務局長／古澤 眞作

への決意が高らかに述べられました。
アメリカ・韓国・中国の国際交流締結校からは、首脳クラスを来賓として迎えています。地域との多面的な連携

を図る一方、広く世界にも目を向けて教育・研究を推進する本学の姿勢が、あらためて鮮明に打ち出されました。



次代を拓くパイオニアに、と述べる渡辺 幸貴岩手県議会議長

■今、実社会で求められているのは豊かな教養と専門的な能力を有し、世界的なスケールで物事を見て、考え、そして行動に表せる視野の広い人材です。今後も新しい時代を切り開くために先導的な役割を担い、高い教養、進取の気性、そして豊かな人間性を身につけた人材を多く輩出し、岩手県立大学が一層の発展を遂げていくよう心より祈願してやみません。



又松学園／金 聖経理事長

■学生および教員の交流がますます活発になり、とりわけ若い世代が文化体験や学びを通じ、広い視野でグローバルマインドを育むよう期待します。また、国際的な人的ネットワークが東アジアの連携と一体感につながり、そうした国際舞台で活躍できる人材の育成が図られるよう、手を携えて努力を重ねたいと願っています。



ノースカロライナ大学ウィルミントン校／ヴァージニア・アダム看護学部長

■まず、皆様との出会いに恵まれたことに深く感謝します。さまざまな研究交流を通し、互いの理解やコミュニケーションが深まってきたことを、とても嬉しく思います。異文化に生きる人々から医療や看護について、そして、さまざまな価値観を知るのは有益です。これからも日本の友人たちから学び続けようと思います。

「素心知困」に宿る不変のスピリット

開学から10年の歩みを紹介したのは、佐々木民夫副学長です。

岩手の進学需要に応える高等教育機関が、かねてから必要とされていたこと。高齢化・情報化・国際化など社会構造の変化に伴い、次代を担う人材の育成を通して地域貢献を果たす大学が不可欠だったこと。こうした設立の背景を踏まえ、実学・実践を指向する教育と研究の推進ぶりをダイジェスト的に述べました。

「いわてを担ぐ」の決意で 次のステージへ

さらなる展開の精神的な基盤として熱く語られたのは、開学から唱えられてきた「素心知困」です。「己を知り、本当に望むものを追究することが真の自分に近づく筋道である」と、学問や人生に臨むための基本姿勢を説く言葉。その不変的な価値へ、思いを新たにしたい場面でした。

「Think Globally, Act Locally」は、谷口学長が教育・研究の指針を示す際に標榜するフレーズとして紹介されました。「国際的な観点に立脚してこそ、実効性に富む、さまざまな地域貢献が可能となる」と、大学として進むべき道が明快です。こうした考え方を支え



「10年の歩み」で、これからの展開にも言及する 佐々木 民夫副学長

に、大学として自立性と一体感を高めていく決意が述べられました。

引き続き佐々木副学長は、新しいステージへ臨む基本姿勢を次のように表明。結びの言葉としています。

「県内5大学との連携を強め、岩手における高等教育の充実に努めます。また、

少子化・大学全入時代を踏まえ、県内の各高校との連携のもとで意欲あふれる学生の受け入れを図ります。実学・実践をよりどころにして豊かな教養、幅広い視野、そして確固とした個性や独創性を養う教育プログラムを推進。さらに地域や社会の課題に応え、明確な目的意識に根ざして諸研究の展開とステップアップを図ります。これらの施策が相乗効果もたらし、より戦略的、組織的な地域貢献が実を結びます」

休憩の後、国際交流協定締結校からのメッセージが披露されました。

さらに、記念コンサートでは学生歌「風のモン」の作詞・作曲者、あんべ光俊さんが登壇。「混声合唱団 Polish」と「吹奏楽サークル」とのジョイント形式で優しいメロディーを奏でました。



同済大学（招待校）／楊 東援副学長

■「東アジア共同体の構築を」と谷口学長が掲げる論点は国境を越え、世界にも認められるようになっていきます。同氏は我が大学で三度にわたって講演に臨まれ、学生、教職員から極めて高い評価を得ています。アジアの平和・繁栄・安定・開放に向け、貴大学との民間レベルの交流もまた、確かな礎になると確信します。日中の相互理解が促進され、さらなる関係強化が図られるよう祈念しています。



河北省社会科学院／周 文夫氏

■「いづくにか故人を得て両翼生じ、飛来相伴して情相依る」と、中国の古人は言いました。この緑豊かで花咲き乱れる喜ばしい日に、私たちの友情に喝采を送り、美しい明日に祝福を送りましょう。21世紀、我が院は岩手県立大学との交流と連携をさらに拡大し、手を携えて共に輝かしい功績を作りたいと願っています。

華やぎの祝賀会

(ホテルメトロポリタン盛岡・ニューウイング)

船越昭治氏（岩手県立大学開設準備委員会委員長）が乾杯の音頭を取り、にぎやかな歓談の幕開けとなりました。テーブルスピーチを行う各氏も場を盛り上げ、思い出深いひと時となりました。



来賓の各氏も、会場に勢ぞろい



日本の味が、お気に入りの様子でした



スピーチに立った川崎 功・元副学長



兼松 百合子・元看護学部長も元気な声で



ミニコンサート。あんべ光俊さんと一緒に学生歌「風のモント」を歌いました

来賓として当日、お越しの方々

【国内より】

- 岩手県知事 達増 拓也氏
- 岩手県議会議長 渡辺 幸貫氏
- 首都大学東京学長 西澤 潤一氏
※前・岩手県立大学学長
- 岩手大学運営委員 船越 昭治氏
※岩手県立大学開設準備委員会委員長
- (財)自治体国際化協会専務理事 上田 鉦士氏
※元・岩手県総務部長
- 岩手県立大学後援会長 田口 秀樹氏
- 岩手県立大学同窓会会長 高橋 孝典氏
- 岩手県立大学盛岡短期大学部 成美会会長 伊東 碩子氏

【海外より】

- 河北省社会科学院 院長 周 文夫氏
※中国/2001年5月～国際交流協定締結校
- ノースカロライナ大学ウィルミントン校 看護学部長 ヴァージニア・アダムス氏
※アメリカ/2002年12月～国際交流協定締結校
- 学校法人 又松学園理事長 金 聖経氏
※韓国/2006年9月～国際交流協定締結校
- 又松大学校 ソルブリッジインターナショナル スクールオブビジネス総長 ジョン・エンディコット氏
- 同済大学副校長 楊 東援氏
※中国

大連交通大学〔中国/2003年12月～国際交流協定締結校〕ならびに慶尚大学校〔韓国/2001年12月～国際交流協定締結校〕の関係者は、ご欠席となりました。



謝辞を述べる、相澤 徹理事長



心あたたまるメッセージを寄せてくださった各氏

環境・人・社会を多彩なテーマで。

岩手との絆を深め、

グローバル指向も鮮明に。

岩手県立大学・開学10周年記念事業

地域や世界との連携、そして学術振興、人材育成、産業界とのリレーション強化など、さまざまな観点から開学10周年記念事業が繰り広げられます。この夏から秋に予定されている主なラインアップの紹介です。



地域貢献・国際連携の観点で

アジア地域開発・環境フォーラム

- 10月17日〔金〕 9時45分〜17時20分
- 岩手県立大学 講堂

アジアの各地域が、それぞれの人的・物的資源を活かして、地域社会経済を維持・発展させるために必要な「健全な地域開発」について経験と展望を共有するため、各国の事例や課題を挙げて考察、議論を深めます。

■基調講演

参議院議員／広中 和歌子氏
岩手県知事／達増 拓也氏ほか

■パネルセッション

「アジア各国からの報告」
国際連合大学客員教授／高橋 一生氏
マレーシア工科大学教授

■ラウンドテーブルディスカッション

「アジア地域開発における環境の社会的経済的影響」
岩手県立大学学長／谷口 誠ほか

看護学研究科

平成20年度「がん看護のつどい」

- 8月2日〔土〕 10時〜12時
- いわて県民情報交流センター
- 「アイーナ」803会議室

看護職者、医療従事者、がん専門医療人養成機関の教職員、さらに看護学を学ぶ学生が対象です。第2回「北東北がん看護フォーラム」(13時〜16時)と同日開催。



■基調講演

「看護学研究科の歩み いま・これから」
岩手県立大学大学院 看護学研究科長
安藤 広子

■記念講演

「がん予防とスクリーニングのための地域に根ざした看護研究」
講師●ペリーJ・ホマー氏
千葉大学看護学部 客員教授
前・ノースカロライナ大学ウィルミントン校
看護学部副学部長

看護学部副学部長
座長●白畑 範子
岩手県立大学大学院 看護学研究科 教授

学術・産業振興の観点で

ETロボコン2008

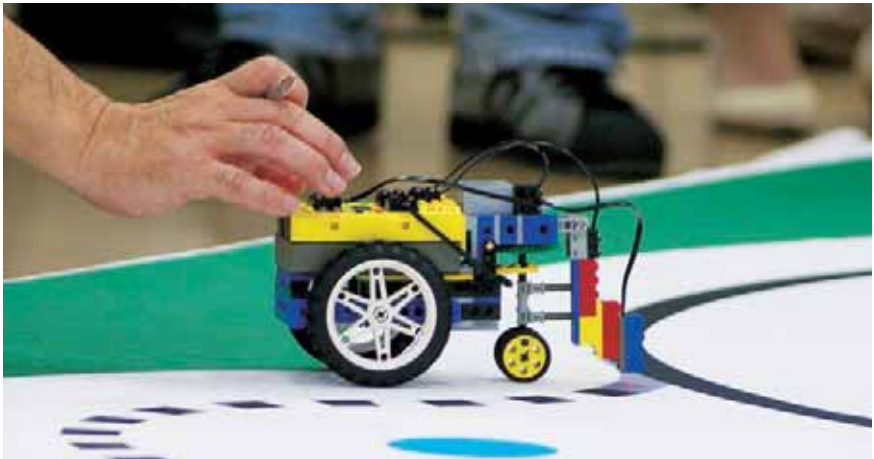
北海道・東北地区大会

- 8月31日〔日〕 10時30分〜16時30分
- 競技会：共通講義棟201講義室
- ワークショップ：共通講義棟301講義室

さまざまな電子機器に搭載され、制御機能をつかさどる「組み込みソフトウェア」。その技術水準は、モノづくりにおける国際競争力へ直結する大切な要素とされています。こうした領域に関する専門教育を推進、さらに実践に強い技術者の育成を図る機運を盛り上げようと、本学の特別協力で競技会とワークショップが開催されます。



共通のプラットフォーム(レゴブロックの車体)に、モデリング言語で分析・設計したソフトウェアを搭載。あらかじめ決められたコースをマシンが自律走行し、速さと制御の確かさを競い合います。IT企業との合同を含め、ソフトウェア情報学部からは延べ5チームがエントリー。演習の一環として取り組んできた成果などをレースで披露します。



企業との協働・社会貢献の観点で

CAMPクリケットワークショップ

- 8月17日〔日〕 13時〜17時
- 共通講義棟201講義室
- 運営●岩手県立大学学生ボランティアセンター

協賛●(株)岩手CSK
(株)CSKホールディングス
「クリケット」という小さなコンピュータ。これに、いろいろな素材を組み合わせてアイデア豊かな動くおもちゃを作り、出来ばえを披露し合ったり感想を語ったりします。子どもたちが創造性や表現力を伸ばす機会を、と小学生を対象に開催。

看護学部

平成20年度・看護学部公開講座

「若手県立大学看護学部10年の歩みと今後の展望」

●8月24日「日」 10時〜17時30分

●若手県立大学講堂・共通講義棟

看護職者の育成とキャリアアップ、地域性を踏まえた看護への取り組みなどの観点に立ち、実践者が認識を深めたり意見を交わしたりする機会です。

■基調講演

「看護職における大学教育の成果と今後の課題」

講師 ● 兼松 百合子氏

若手県立大学名誉教授

■記念講演

「地域文化に根ざした看護」

講師 ● 野口 美和子氏

沖縄県立看護大学 学長

■ランチオンセミナー

「若手看護学会論文投稿および学会発表のためのワークショップ」

■フォーラム

「若手県立大学看護学部での学びと卒業後の今」

パネルディスカッション

「若手新進気鋭の看護職者、看護の夢を語る」

ティーパーティ

ティーパーティ



社会福祉学部

「タイムグラバあちゃん」上映会

●10月26日「日」：大学祭2日目

●共通講義棟1001講義室（なし）は講堂

本学と包括協定を結んでいる川井村。その早池峰山麓を舞台とする映画を通して山村過疎地の生活を知り、そこに暮らす高齢者の尊厳について関心を寄

せたり考察したりする機会を提供します。

※他の入植者が山奥を去った後も2人で暮らし続けた向田久米蔵・マサヨさん夫妻、15年の記録。

■「タイムグラバあちゃん」(上映時間110分)

監督 ● 澄川 嘉彦

支援 ● 文化庁 製作 ● 2004年

■澄川監督の講話

製作にまつわる思い出、現在のタイムグラバの様子

総合政策学部

教育における地域との連携

地域社会のさまざまな課題を取り上げる実習の一環として、地域の皆さんにもご参加いただき、現場

で実践し学んだ成果を地域に還元していくことがねらいです。

実習・演習報告キャラバン

自治体の政策課題を具体的に考える

滝沢村(総合計画)、田野畑村(住民との協働)および盛岡市(まちづくり)での実習を通して自治体の

政策課題を具体的に考えてきた成果を踏まえ、協働

型社会における大学・大学生の役割に言及します。

●7月30日「水」13時〜16時

●若手県立大学 共通講義棟・1001講義室

担当 ● 田島 平伸教授「政策課題実習」



農村地域の産業と商店街の活性化を考える

現場において後継者・人材不足は待ったなし、という問題意識で地域産業の維持・再生への人的貢献

に取り組む。商店街を実習拠点にして実態調査、地元関係者との意見交換、さらに来場者アンケートなどを行います。

●7月30日「水」16時30分〜17時30分

●若手町・大町商店街「街の駅よりじゅ」

●8月2日「土」15時〜17時 雲石町商工会

●8月3日「日」9時〜13時 雲石町商店街よしやれ通り

●8月7日「木」17時〜21時 雲石町大町商店街

●8月8日「金」17時〜18時 雲石町大町商店街

担当 ● 桑田 但馬講師「経済学実習」

みんなでつくろう「生き物地図」滝沢の自然体験

キャンパス周辺の森林や緑地を巡り歩き、特徴的な生き物の分布地図を作成。滝沢村の身近な自然環境を知ったり再発見したりする集いです。

●10月4日「土」11日「土」13時〜16時

●若手県立大学・本部棟の前に集合

担当 ● 豊島 正幸教授・島田 直明助手「地域環境調査実習」



盛岡短期大学部 国際文化学科

韓国・慶尚大学校との交流10周年記念事業

「フアンヨン(歓迎)!! 慶尚大学校」

国際交流協定を締結した間柄として、行き来が行われるようになって10年。この節目に、師範大学校日語教育科の教員と学生の皆さんを迎えました。

■特別講演会

「韓国から見た日本文化」

●7月9日「水」10時30分〜12時

講師 ● 尹 岡丘教授「日語教育科長」

金 明珠助教「日語教育科」

日語教育科の在学生6名

日本語の難しさ、面白さ、あるいは日本の文学・生活習慣・サブカルチャーなど豊富な題材と異文化体験に基づいてオムニバス形式でコ

ミュニケーションを図ったり、相互

理解を深めたりするための示唆に富

む内容でした。

このほか日韓の学生を対象とした合同授業、交流会、平泉の史跡ツ

アーなどが日程に組まれました「7

月6日〜11日」。また国際文化学科

が行ってきた韓国研修など、これま

での交流の歩みを振り返る記念誌の

作成が進められます。





学年や所属の違いを超え、仲間が集うと楽しい



ダイナミックな筆づかいで存在感をアピール

みんなの、ボラセン!

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

●
教育・学生支援の
新たな施策として
開学10周年の節目に誕生。

地域の人たちとの 協働と、 リレーションを深めよう

「ボランティア活動に参加して、地域の人の役に立ちたい」と意欲を示す学生のマンパワー。そして地域から寄せられる、ボランティアに関する多様なニーズ。これらをつなぐ役割を果たしているのが「岩手県立大学学生ボランティアセンター（略称・ボラセン）」です。

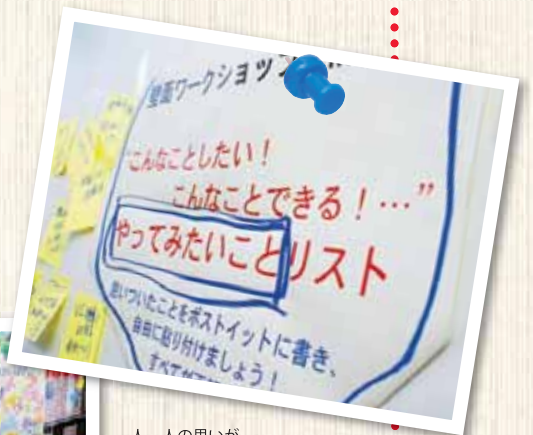
ボランティアに特化した交流や情報提供の場を、と大学側へ働きかけたのは、中越沖地震の被災地へ赴いたこともあるサークル「風土熱人R」のメンバーです。「地域貢献の一環として、ボランティアへの機運を全学的に盛り上げるための環境を整えてほしい」。こうした熱意に応える形で、開学10周年

の節目に設立されました。

場所は、メディアセンター棟の1階。大きなガラス窓が目印です。ソフト制で学生スタッフが常駐しており、ボランティアを希望する学生・ボランティアを依頼する地域の人たちへの対応に務めたり、依頼内容の事務処理を進めたりしています。ボランティアサークルほか個人参加の有志も含め、1000人ほどがボラセンの仲間たち。

「自由意思で、それぞれが取り組めることを通して社会性や人間性を養っていく。そのような機会とのマッチングを図りながら、心の交流を広げていくのが願いです」

と、代表の浅石裕司さん（社会福祉学部・福祉経営学科／3年）。地域の人たちとの協働とリレーションを深める精神は、いくつもの笑顔で彩られます。



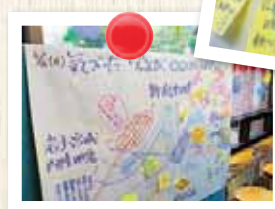
一人一人の思いが、活動を通して実ります



地域防災とも、実践レベルで関わってきました



昼休みを有効に使ってミーティングが進行中



依頼内容のチェック、活動記録の整理も大切な仕事



ガラス窓に、新着情報を伝える手づくりリビラ



中越沖地震(2004)の被災地で先輩たちが活動した時の看板



障害を持つ方をサポート、鞍掛山に登りました



韓国・慶尚大の学生と親睦を深める場面

ボランティアへの 思いやりがい

心の“つながり”も値打ちだね

松本 唯美 [社会福祉学部・福祉臨床学科/1年]

今まで、高齢者宅の清掃ボランティアを行ってきました。そうした機会では、ただ作業をするだけでなく、ご主人と雑談したり、カレーライスと一緒に作ろうと約束したりするなど、人と人との新しい“つながり”を持ってました。

活動へ参加するという次元を超え、たくさんの方々と心の交流を図れる点もボランティアの良いところだと思います。

表そう、精一杯の気持ちとスマイル

山川 裕香 [社会福祉学部・福祉経営学科/2年]

私にとってのボランティア活動は自分自身の成長を図れる場、そして広い人間関係を築ける場です。

社会人との接し方を学び、現場へ参加することに伴う責任の重さを痛感など、たくさん貴重な成果が得られます。先輩や後輩との良好なリレーションも生まれています。楽しむ気持ちと笑顔を忘れず、チャンスには物おじしないでトライしたい。そして、精一杯の気持ちを表そうと思います。

もっと広がり、コミュニケーション

細川 織璃 [社会福祉学部・福祉臨床学科/1年]

ボランティアセンターには、さまざまな情報が集まってきます。その中から関心の高い依頼内容を選び、自ら手を挙げて参加することで、とても良い社会勉強が積めると実感しています。

私は自閉症の子供たちと遊んだり、イベント会場で託児ボランティアを務めたりする活動で、いろいろな人と知り合えました。地域の皆さんとのコミュニケーションが、もっともっと広がれば良いと思います。

企業との、ジョイントにも手ごたえ

田口 美樹 [社会福祉学部・福祉臨床学科/4年]

8月に行われる「CAMPクリケットワークショップ」というイベントの企画に携わり、滝沢村内の小学校への広報活動、学生ボランティアの募集などを担当しています。

ニーズとニーズをつなぐコーディネート的な役割、自分たちが企画・運営の主体になれるという役割。いずれにしても大変さ、面白さ、やりがいを感じられます。また地域と大学、企業と大学など、さまざまな連携の形が生まれることを日々、実感しています。

社会の役に立ち、自己の成長も図れます

今野 慎也 [社会福祉学部・福祉臨床学科/2年]

ボランティアセンターには、たくさんの方々のボランティア依頼が寄せられます。そして、さまざまな活動への参加を通して学生は社会への貢献を実感し、自己の成長を図っています。

仲間になりたい、社会参加に興味あり、という人は、とりえず僕らと知り合うことから始めませんか。学生同士が連帯を深める場としても、ボランティアセンターは、いつでもウェルカム！ 運営方法や活動内容、そして体験談など、いろいろ話そうと思っています。



海外事情、国際援助についても勉強の機会あり



四川大地震の被災地へ、義援金を募る活動も

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

運営時間 ■ 月曜日から金曜日までの10:30~18:00

運営団体 ■ あいもり …… 県立児童館での活動ほか

ASSIST …… 青少年の非行防止

KIPU Labo …… 化粧の手伝いなど高齢者とのふれあい

どろんこ隊☆ …… 子どもたちとの遊び体験など

ピアいぶ …… ピアカウンセリングによる思春期保健活動

BBS …… 児童養護施設や少年院の訪問、

街頭バトロールなど

風土熱人R …… 災害・防災活動ほか地域貢献全般

電話・FAX ■ 019-694-2835

E-mail ■ vol.center.ipu@gmail.com

言葉のチカラを、次代へ翔けるエナジーに。

本学と、ゆかりの深い各氏から祝福の言葉、さらに学生や教職員への励まし、アドバイスなどを寄せていただきました。たくさんの方々の理解と協力を支えられている大学運営。心強いエールを得て、次代への歩みは加速しようとしています。

いろんな個性と巡り合いたい。

岩手県立大学経営会議委員 [岩手日報社 常勤監査役] **野口 純**さん

7年間、岩手日報社で人事・採用・研修の仕事をしてきました。そうした経験に基づいて少し、お話しします。この7年間に入社した若者は50人で、全員が元気で仕事に励んでいます。そのうちの何人かを紹介しましょう。昨年暮れから4ヵ月間、南極へ行ってきたA君は地味な男で、物事にじっくり取り組むタイプです。平泉の「登録延期」は残念でしたが、カナダ・ケベックでユネスコ世界遺産委員会を取材したB子さんは、英語とフランス語が堪能。本人は「大したこと、ありません」と謙遜しますが、なかなかの実力です。

7月2日付・夕刊1面を飾った、岩手山の御来光の写真。あれを撮ったC君は取材記者としてスタートしましたが、カメラの腕を見込まれて現在は、写真班で活躍しています。

行動派の女性もいます。学芸部に所属するD恵さんは厳冬の岩洞湖でワカサギ釣りを体験したり、川井村の山でタケノコ採りに挑戦したり。また、スポーツ選手は大勢います。ハンドボールの国体選手が、男女合わせて3人。さらに野球に



「素心知困の会」で深まる同窓の絆。

同窓会会長 [ソフトウェア情報学部・2002年3月卒・一期生]
岩手県保健福祉部 医療国保課 **高橋 孝典**さん

西に望む岩手山が、まばゆい残雪に彩られている…。そんな時季の混沌めいた情景が、無性に懐かしく想えます。

1998年4月。開学から間もないキャンパスに私たち一期生が顔を揃えました。当然のことながら1学年の人数しか在籍していないので顔見知りが増え、どんどん親しくなれました。先輩も後輩も皆無の環境に身を置くと「自分たちが新しい何かを始める」というパイオニア精神、連帯感が浸透していくようでした。弓道部と水泳部、そして、さんさ踊り実行委員会の立ち上げに関わった私は、情報社会の基盤技術を研究する講座の運営でも風通しの良いコミュニティーを理想としました。

「素心知困の会」と呼ばれる同窓会の活動を、5500人を数える卒業生の総意で盛り上げたいと思います。かくいう私は昨年10月、3代目の会長に就いています。

縁あってIPUのキャンパスに集う者同士、人的なネットワークを広げて交流を図りましょう。岩手で頑張っている人、あるいは県外や海外に活躍の場を求めた人。よろしかったら消息や近況を、お知らせください。ちなみに専用のホームページへは、大学のWebサイトからもアクセスできます。

今年の大学祭初日は10月25日(土曜日)です。同窓会としても開学10周年の祝賀ムードを高めようと、その日にタイミングを合わせて「ホームカミングデー」を企画します。同窓の絆を深める絶好の機会に皆さん、ふるってお越しください。





向学心に燃えているが、経済的な理由で大学進学が閉ざされる高校生は少なくありません。「学ぶことへの希望を持たせてあげたい」。当校のみならず、岩手における多くの高校教育の現場に共通する認識と言えるでしょう。

私学に比べて格段に学費の安い公立大学が岩手に誕生したのは、大いに評価できます。岩手県立大学の学部構成は時代性や実社会のニーズとマッチしている、従来型の学問の概念を超えた斬新な方向性を持つ、といった点が大きな特徴として見出せます。未来を志向する高校生に向け、斬新でユニーク

な大学像をアピールする要素は多岐に及びます。

地域に根ざす大学なのだから、地元である岩手の高校生を、より多く受け入れるための建設的な取り組みに期待します。たとえば、ペーパーテストの成績にとらわれず「生まれ故郷のため、岩手のために役立ちたい」という郷土への思いを評価できるような選抜方法を考案していただけると、進学指導の現場としても大きな励みになります。

それぞれの学部の視点で岩手が抱える問題を捉え、解決方法を見出し、卒業後は、岩手を支える人材として活躍するのが人材の成長プロセスとして想起されます。市民生活や地域の日常に目を凝らしてテーマを掘り下げ、自分自身が将来、社会の中でどんな役割を担っていくべきか。その答を探るのが大学生活の主眼となるはず。こうした人材づくりの観点に立ち、高校との、より緊密な連携が図られるよう期待しています。

岩手の未来へ、希望を贈ろう。

岩手県立軽米高校 校長 高橋 光彦さん

十人十色と言うより、五十人五十色。多様な個性を尊重し、個と個が上手に組み合わせられて大きな力となる。わが社は、そういう目で優れた人材の発掘に努めています。岩手県立大学の学生諸君が、数多く受験してくれるよう期待しています。



4年前、地元に住んでいるという理由からだと思われませんが、後援会の理事に、と推していただきました。さまざまな形で娘がお世話になるであろう大学のため、何か一つでも役に立ちたい。そんな思いも重なり、お受けした次第です。

以来、会合に出席するたび、大学運営・教育・研究に携わる方々の真摯な気持ちと向き合い、多々教えていただいたり認識を新たにしたりする機会に恵まれてきました。

先ごろの開学10周年記念式典でも、設立に際しての熱い使命感とともに、この10年間に注ぎ込んだ創意や情熱の重みがひしひしと伝わってくるようで、後援会としても、より一層のお手伝いに努めようと思いを強くしたところです。

近ごろは、学部が提供する話題とともに、ボランティア活動の様子がメディアで取り上げられるケースが増えたように見受けられます。勉学を志して入学する学生は当然のこととして多いでしょうが、それとは異なる志を立て、課外活動でも自己の成長を図ろうとする学生の存在が、学内の活性化を促すと信じています。

ボランティアで地域への貢献を果たそうとする学生像は、かなえられる憧れとして、あるいは近未来の姿として、多くの高校生から支持を得るでしょう。「学生と学生」という同質性の殻に閉じこもることなく、さまざまな社会分野での人的な交流を経て、幅広い視野と人間性を育んでほしいと思います。



自己を律する学生像への期待。

岩手県立大学後援会会長 田口 秀樹さん

ダイジェスト版・開催記

開学10周年記念事業

岩手県立大学 国際ソフトウェアシンポジウム

情報環境のイノベーション、その可能性を探る

くらしや地域産業とIT。

次世代型の

価値ある結びつきを求めて

次世代に向けてIT技術は、どのような方向性のもとで進化を遂げようとしているのか。また、さまざまな社会分野への戦略的・実践的な導入を図るためのノウハウは、いかにして実現されるのか。こうした視座を掲げ、多岐にわたる研究シーズの育成・活用を視野に入れて研究発表や意見交換が行われました。

アイルランド・ドイツ・カナダ・スウェーデン・イタリアなど、海外からも第一線の研究者を招へい。社会システムやニュービジネスの創出、中小企業の活性化、さらに第一次産業の再生につながる先駆的なソフトウェアの研究開発など、時代の潮流を捉える建設的な視点が提示されました。地域産業の振興ならびに競争力強化をもたらすイノベーションへの関心は高く、会場には多くの市民も詰め掛けました。

5/28 [ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング]

■ 特別講演

「精密な文書化：理論と実践を同時に満たすために」
デイビッド・パーナス教授/アイルランド・リムリック大学



■ 講演

「顔画像認識と音声認識に基づく仮想認知モデル」
樽松 理樹准教授/本学・ソフトウェア情報学部

※このほか、8氏がセキュリティ技術、意思決定支援、バーチャル開発環境、画像処理技術の医学への応用などについて述べました。

■ パネルディスカッション

「世界から見た岩手や日本の産学連携」

※コーディネーターとして藤田ハミド教授（本学・ソフトウェア情報学部）。さらにパネラーの各氏が登壇。

5/29 [本学講堂]

■ 特別講演

「どうすればソフトウェア工学において有意義な研究開発を行えるのか?」
デイビッド・パーナス教授/アイルランド・リムリック大学

■ 特別講演

「日本のソフトウェア開発の現状・課題・未来
～日本のICT企業におけるソフト開発技術を中心として～」
上原 三八氏/富士通研究所 取締役

■ 意見交換会

岩手県立大学 10周年

検索

<http://www.iwate-pu.ac.jp/web-10th>
Since 1998 IPU 10th

ホームページに開学10周年記念サイト

1998年に開学し、今年で10周年を迎える本学。この記念すべき節目にあたり、これまでの歩みや今後への決意などを紹介するWebサイトを本学ホームページ内に開設しました。

10年目の決意として「いわてを担ぐ!」と、谷口学長が力強いメッセージを寄せています。「夢のある大学、いくつもの物語のある大学」への思いやビジョンを語り合うコーナーも。そして教育・研究活動・地域貢献・学生活動などに関する情報や話題をふんだんに盛り込んでいます。看護・社会福祉・ソフトウェア情報・総合政策の4学部と、盛岡・宮古の短期大学部を擁する本学の概要とエッセンスを掲載しています。



キャンパス彩

コナラ(どんぐり)の苗木

この秋の植樹に向け、すくすく育っています。肥料は油かす。乾燥を防ぐため、ポットに入れて草地へ置いています。昨年10月22日、川前保育園の園児らがキャンパス北寄りの森で拾い集めた実が発芽。冬を越し、夏を迎え、葉の緑も濃くなりました。本学の10周年を祝い、開学記念碑の近くへ植樹される予定です。

編集後記

大学構内に、開学に併せて記念植樹された樹木があります。この木が、10年で見上げる大きさになりました。この間、多くの人々が樹木の前を通り過ぎていきました。開学に関わった方、大学運営に携わった方、教員、学生、そして地域の方々。季節が変わり、人が変わるのを木々は見守り続けてくれました。これまでを振り返り、これからの展望を示した開学10周年記念式典。移り変わる時の中でも、我々の目指すものは変わらない、それを実感した式典になりました。(斎藤)

IPU-38

発行/2008年8月11日

公立大学法人

岩手県立大学
経営企画室

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巢子152-52

TEL/019-694-2005・FAX/019-694-2001

URL/http://www.iwate-pu.ac.jp/ e-mail/management@ml.iwate-pu.ac.jp